

日 刊

# 新東京

NO. 4384

2007年  
10月1日(月)

日本郵政公社  
労働組合  
新東京支部  
編集委員会

03-5690-2847  
内線 4163

## 新たなスタートにあたり

### JPU新東京支部

### 支部長 下山 篤

長く政争の具にさらされ、不当な小泉前首相による9・11郵政選挙の大敗により、私達が強く反対していた『郵政民営化』が実施され、郵政グループの一員、郵便事業会社として、本日、スタートをきる。複雑な思いを禁じ得ない。

しかし、思いにふけってばかりはいられない。巨大な民間企業として、社会的な注目を集めてのスタートである。数年間に渡る郵政部内の力を一つにし、行動した結果、労働条件を始めとする課題が新会社へ承継され、各個人あて

に周知されている。改めて『組織』の重要性をお互い認識し、今後も組織拡大に努めたいと思う。

また、郵便事業会社として、全国のユニバーサルサービスの拠点である、新東京支店の置かれた位置の重要性を認識し、日常の業務運行に万全を期したい。組合員の理解と協力を要請いたします。職場で不足する労働力については、上部機関と連携をはかり、強く本店・支店に求めたいと思います。

とりわけ、最初に迎える年末年始繁忙対策については、失敗は絶対に許されないと、思いで、万全を期す取り組み

と職場での日常的な意思疎通を大事にした取り組みを行っていききたい。

内部的な課題である、組織統合については、10月22日の本部、11月6日の地本などの上部機関の統合を受け、一年間の猶予が与えられているが、上部機関の指導のもと「対等」、「互譲」を旨に、未志向で組合員の利益向上を基本に取り組んでいきます。組合員の皆様の格段の御理解、よろしく御願ひ致します。最後に組合員の皆様の御健勝と御活躍を祈念し、あいさつとします。

# JPUは 非常勤の皆さんの 安心の砦になります!



日  
刊  
新東京

No. 4387 2007年10月4日(木)

日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会

TEL 03-5690-2847 内線 4163

## スタートアップ2007を総決算する

民営郵政がスタートした。組合員や家族がこの日を安心して迎えられるように、各機関は「スタートアップ2007」の名の下に創意工夫を凝らしながら様々な活動に取り組んできた。まず中央本部では、民営化で事業や業務内容、労働条件がどのように変わるのかをまとめた「民営化ハンドブック」を配布し、組合員やその家族の不安に応えた。さらに重要とおもえる事項については『JPU スクエア』において図解入りで解説し、ホームページ上でも「民営化サイト」「スタートアップサイト」を作り広報活動を展開した。各地方機関においては、組合員・家族の元気づくり、仲間づくりを合言葉に様々なイベントが開催された。群馬連協（関東地本）では組合員の力を結集し、世界一長いのり巻きに挑戦。見事ギネス記録を達成した。長野連協（信越地本）では、四つの会場にそれぞれ「坂本冬美」「美川憲一」「梅沢富美男」「新日本フィルハーモニー交響楽団」を招きチャリティーコンサートを実施。青年委員会が中心となり、集められた募金は長野県社会福祉協議会に全額寄付した。東京地本においては、フィリピンの子供たちへの奨学金支援活動を実施。また、浅草花やしき遊園地を貸しきってのふれあいイベントや「納涼ビアパーティー」「夏まつり」等で組合員、家族、仲間たち相互の親睦と元気づくりをおこなった。

この一連のイベントの意味するところにおいて、アプレコミュニケーションズ代表の鹿野和彦氏はJPU 時報(最終号)において次のように語っている。「組合員(または家族)のみならず、地域社会に対してもJPUの存在をあらためて訴求することになったと思います。各機関の取り組みはこれまでの集大成であり、社会に責任を持つ労働組合の有様を示すものであったように思います」

日 <span style="font-size: 2em; font-weight: bold;">新 東 京</span> 刊	NO.4388	2007年10月5日(金)
	日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会	
	03-5690-2847	内線 4163

## 病気休暇制度の変更について

現在は国家公務員災害補償法の適用を受けていますが、民営化後は労働者災害補償保険法の適用を受けることとなります。現行と比較したものは下記を参照して下さい。

### 現行（有給）

次の場合にいずれも有給の休暇を付与

- ① 公務上の傷病若しくは通勤による傷病のため療養する必要があり、勤務しないことがやむを得ない場合
- ② 私傷病のため療養する必要があり、勤務しないことがやむを得ない場合
  - ・ 6日以内の病気休暇を請求するときは、診断書の提出は不要



### 新制度（無給又は有給）

病気休暇事由により有給と無給に区別する

- ① 業務上の事由又は通勤による傷病（以下【業務上傷病】という）の病気休暇（無給）
  - 業務上傷病のため療養する必要があり、勤務しないことがやむを得ない場合は、無給の休暇とし、労災保険の休業補償を受けることとする
  - 次の部分について、会社負担による休業補償付加給付を行う
    - ア 業務上傷病発生時の給与と労災保険の休業補償との差額
    - イ 労災保険が適用されない傷病発生から3日目までの休業補償
    - ウ 労災保険から支給されない夏期手当及び年末手当相当額（従来給与で支給されていたものを休業保障化）
    - エ 傷病補償年金等受給者と年金等非受給者の給付水準の差額
- ② 私傷病の病気休暇（有給）
  - 制度改正なし

日 刊	<b>新 東 京</b>	NO. 4390	2007年10月10日(水)
		日本郵政公社労働組合 新東京支部 編集委員会	
		03-5690-2847	内線 4163

**組合員・家族・ゆうメイトの皆さん!**

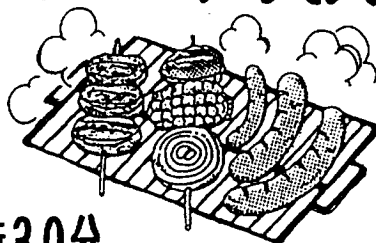
## バスで行くバーベキュー交流会

JPU新東京支部レク

今年の支部バーベキュー交流会は、バスをチャーターして、みんなでワイワイガヤガヤ交流を深めながら行います。

ふるってご参加下さい。

### バーベキュー大会



日 時 11月11日(日)

局集合 9時30分

現地 11時30分~13時30分

場 所 シャトーカミヤ(茨城県牛久市)

参加費 大人 2,000円

子供 1,000円(中学生以上)

申し込み締切り 10月15日

**参加者は基本的に局集合とし、バスにて現地に行きます**

電車利用の場合はJR常磐線牛久駅下車徒歩8分

雨天決行(大型テントがあるので雨でもOK)

参加希望者は、執行委員、分会役員まで

## 第43回支部委員会報告

十月十八日、臨時全国大会に向けた、第43回支部委員会が開催されました。

議長に三小分会の伊藤支部委員を選出し議事が進行されました。

### 「支部長あいさつ」

『民営・分社化された新たなスタート。準備の遅れなど様々な問題がある。組織統合で新たなスタートになる。この間、職場

で丁寧な説明が出来ていなかった。職場での問題を出して欲しい』

【一特】平和の取り組みを引き続き求める。労働条件守ること。通勤手当の見直しへの不満がある。統合後の支部委員会開催について問題だ。やる方向で。

【二普】全通会館はどうなった。綱領、基本目標については今大会で決め

ないで先送りを。現場はトヨタ方式で仕事。規約にくくってある。規約で綱領や決議機関に反し。濃いついだ。民営化で地方の郵便局の危機。自治体が反対しているのに組合は何もしていない。国鉄、電々、専売、民営化で減員。海外でも同じ。我々も将来雇用不安になる。

【二特】組合費下がるのは良いが、活動費は補償されるのか。この間、オランダがない。支部見解も示されない。この様な状況が合併なのか。30万人組織目指すのか。30万人対象はゆうメイトだが、思

う。しかし、ゆうメイトの労働条件改善されていない。泊まりも回数減らされ減収。労働条件等改善を本部に求めて欲しい。

【一普】50億闘争資金についてどうなっているのか。全郵政とは色々あったが、一つのテーブルにつかなければと思う。特定局は民間になってどうなったのか。

【一小】共済のセキュリティ強化を。機関誌郵送とあるが？

【三特】統合について支部内での話し合いは？

【二特】議案書をみると全郵政に吸収されるようなイメージ。

組合休暇を取らないで年

休で組合活動したとき補償とあるが、組休取るべき。もっと活動しやすいようにするべきだ。

【支部答弁】

組織統合については三段階あるが、創生期が大段。全国各地の心合わせをおこなう。融和を図る。支部統合は一年間かけ心配りをする。経営側に影響力を行使するためにも統合。平和の取り組みも継続。本務者中心から非正規労働者の労働条件等取り組む。正規社員への道を切り開いた。綱領についてには全国大会で確認済み。全通会館について、清算人が処理を行っている。格差社会の中で

非常勤の組織化を行うことは重要。非常勤が組合を作っていく運動目指していく。

組織のあり方、組合民主主義については危惧がある。上部に意見反映していく。

新しい組織で民営郵政を担っていききたい。

【民営化後の問題点】

窓口で後納郵便はその場で決済するようになり、今までの5倍の作業。要員足りない。航空機搭載のx線処理も要員不足。その他、年末始繁忙の問題点について議論されました。

日 新東京 刊	NO. 4399	2007年10月23日(火)
	日本郵政グループ労働組合 JPU新東京支部 編集委員会	
	03-5690-2847	内線 4163

10.22「日本郵政グループ労働組合」誕生

# 『JP労組』いよいよ始動 祝

## JPUと全郵政が組織統合 委員長に山口義和・前全郵政委員長

日本郵政グループの労働組合である日本郵政公社労働組合（JPU）と全日本郵政労働組合（全郵政）が22日に結成大会を東京の新高輪プリンスで開催し、結成大会運営規則に基づき、両組織の臨時大会で承認された経過を受け拍手で決定して日本郵政グループ労働組合（JP労組、22万600人）が新結成された。

JP労組の委員長には山口義和・前全郵政委員長、副委員長には竹内法心（のりなか）前JPU副委員長と轆轤（ろくろ）誠・前全郵政書記長の2人、書記長には難波奨二・前JPU書記長が、それぞれ就任した。

結成大会終了後、日本郵政グループ労働組合の結成を記念しレセプションを開催しました。



## 民営化とは通勤手当を下げるとなの…？

職場ではなんの説明もなく通勤方法の変更、通勤費の変更(削減)、を通告された人が何人もいる。

当局の説明では「生活関連手当ガイドライン」に基づいて計算し直したらしい。

しかし、ここで示された通勤ルールは、一般的な利用方法としても常識的にもおかしいものが数多くある。

なんで東京から埼玉県に行き、わざわざ遠回りして乗り換えなくてはいけないのか。

なんで山の手線の内側から通勤している人が三回(4路線)も乗り換えしなくてはいけないのか。

なんで本数が少ない路線、一時間一本くらいの電車で通勤しなくてはいけないのか。(当然夜勤はできなくなる)

なんで乗り換え回数が増える上

に歩いて6分かけて別の駅まで行かなくてはいけないのか。

朝の通勤は一分でも一秒でも大切だし、深夜勤務終了後も早く帰宅し次の勤務のために体を休めようとしているのに電車を何度も乗り換え、通勤時間も延び、通勤手当まで下げられてしまうなんて…。

そもそも「生活関連手当ガイドライン」なんて職場のどこにも置いていないし、10月1日から勝手に変更されているみたいだけれども、通知されたのはつい先週だ！ まったくめちやくちやも

いいところだ！

「職員の手帳ベーションを…」なんていつているけど民営化したとたんに金に汚い商人(あきんど)のようになつてしまった。

新・ケチケチ大作戦の始まりでしようか？

## プルタブ回収で車椅子贈呈

今月中旬に地本が代表して千葉県にある晴山園にリクライニング機能1台・入浴用1台・普通3台の合計5台贈呈しました。晴山園のかたは大変びっくりして喜んでいました。プルタブ回収とは新東京の青年が始めた運動が東京全体の運動となったものです。

みなさんご協力ありがとうございました。  
新組織となっても引き続き頑張っていきます。

日 刊	<b>新東京</b>	NO.440/ 2007年10月25日(木)
		JP 労組 JPU 新東京支部編集委員会
		☎03-5690-2847 内線4163

## 窓口の大混乱は誰のせいだ！

### \*スタートからのつまずき

民営郵政が華々しくスタートして3週間が過ぎたが、新東京支店の窓口では初日早々から郵便物の差し出しと集荷業務において大きな混乱がみられた。民営化と同時に始まった会計システムの変更が大きな要因だが、簡単に言うと別納・後納郵便物の差し出しや私書箱業務、集荷業務等の処理方法を窓口端末機や決済系システムパソコン、あるいは携帯端末機を使い、その場で収納業務を行い登録業務や締め業務を行うというもの。今までのように、後納郵便物を翌日になって申請事務センターで打ち込むのではなく、窓口でその場で直接入力し決済する。この会計データは、すべて決済系システムに集積されてセンターで管理される。この直接入力方式によって、新東京支店の窓口が抱えているひずみが以前に増して鮮明となった。

お客が後納郵便物を差し出す際は、差し出し票と共に「ゆうびんビズカード」を持参してもらう。このカードの二次元バーコードを読み込み、お客の情報を確認し、郵便物の引受情報を打ち込み取扱票（控）を出してお客の押印、又は署名をもらって授受完了となる。「ビズカード」を忘れた場合でも差し出し票に32桁の顧客コードが印字されていれば問題はない。情報入力を入れて取扱票（控）を発行し、押印をもらうまでの一連の作業は今までの処理と比べ5倍以上の時間を要する。しかも、初日の大混乱は、端末機・決済系パソコンの操作方法が不慣れな上に、お客がこの「ビズカード」を忘れてきたり、顧客コードが印字されていない差し出し票を持ってきたり、または顧客コードが印字されていても入力できなかつたりと、ハブニングの続出。お客への説明と電話での問い合わせに時間が割かれ、かくしてカウンターは差し出し票の山が築かれ、2時間、3時間待ちのお客であふれかえっていた。当日の中勤、夜勤者は休憩・休息も取れず、仕事から解放されたのは11時頃だ（外回りの集荷担当者も同じ）。また、深夜勤の職員も仕事が押され、零時まで休めなかつたし、翌朝の私書箱交付では、決済系システムパソコンでの領収証書・交付証作成に手間取ったり、着払いゆうパックの大量交付等で9時に上がれず超勤となった。《裏へ》

---

**\*見切り発車のオンパレード**

全国的規模での大がかりなシステム変更にもかかわらずお粗末ぶりが露呈した。この混乱の原因がどこにあるのかは明白だ。ビズカードの発送遅れや取引先企業各社、あるいは発送代行業者の反応を見る限り、きめの細かい準備をしてきたとは言い難い。それは、システムに係わる窓口、集荷の職員・非常勤職員に対しても全く同じで、全員にシミュレーション訓練をするわけでもなく、窓口の職員が受けた業研はわずか2時間ほど。業務変更に伴い付帯作業の何がどう変わるのか、どうやれば効率がいいのか、十分な説明もなければ話し合いもなく、何も分からないまま初日を迎えた。すべてが行き当たりばったり、見切り発車のオンパレードだった。

3週間経った今、初日のような混乱はなくなったが、それでも日勤帯・夜勤帯の職員・非常勤は食事を取るのがやっとで、休息時間は取れていないのが現状だ。毎日超勤をかけることによって急場をしのいでいるだけで、根本的な解決になっていない。後納では一件で何百、何千万という金額の大きいものもあり、割引がかかっているにもかかわらず末端機には割引額が反映されてこないで入力の際には細心の注意が必要になる。この入力と同時に決済が確定する新しいシステム。お客が長い列を作って待っている中、休息もできず数時間入力し続ける精神状態を想像してもらいたい。

**\*新東京支店としての取り組みを**

この業務の混乱にあって一部管理者の「意識」も気になる。準備に少しでも不安があれば責任者なら臨泊する覚悟があつていいはずだ。初日の混乱では、窓口の担当者や集荷担当者から状況を聞くとか、問題点を話し合うとかのフォローも必要ではなかったか。これも「意識」の問題だろう。

とにかく窓口は時間管理ができていない職場でもある。窓口に近い職員、非常勤の時間管理もせず、台車での交付搬送とクイズ点検査えすればいいと思っている一部管理者もいる。「意識」を持たない管理者は必要ない。郵便サービスの質を維持し、これを処理するには新東京支店のキャパはすでに限界に達しているように思う。窓口の引受状況をみれば分かるはずだ。小手先の見直しではなく、抜本からの立て直しを考えないと大変なことになるだろう。今や窓口は応援と超勤なしでは処理できず、計画・計理に多くの負担がかかっている。窓口の問題はもはや窓口だけで解決できる問題ではない。物量に対しての引受検査&検査者印問題。後納票なしで持ち込む未納郵便物の問題。協力金目当ての間引き搬送問題等。民間となって一歩踏み出した今、「コンプライアンス(法令遵守)」の徹底と安定した業務運行のためにも要員の確保は新東京支店としての命題だ。

---

日 刊

# 新東京

NO 4402

2007年  
10月26日 金

日本郵政グループ  
労働組合  
JPU新東京支部  
編集委員会

03-5690-2847  
内線 4163

## J P 労組結成大会

### お祝いメッセージ

## 日本労働組合総連合会

### 高木 剛 会長



J P 労組のみなさん、労組統合  
そして新労組の発足、まことにお  
めでとうございます。

お互いに固有の運動ポリシーを  
有し、長い歴史を積み重ねてこら  
れた、J P U と全郵政。この二つ  
の組織が、郵政事業の新たな展  
開の中、将来のさらなる発展に視  
点を定め、ここに労組統合、J P  
労組発足の運びとなったこと、深

く敬意を表すとともに、連合の仲  
間を代表して心からお祝いを申し  
上げます。

先般2007年10月1日には  
J P 日本郵政グループが発足しま  
したが、2017年の完全民営化  
に向けて、これからも様々な課題  
もあろうかと推察致します。J P  
労組一致団結して取り組んでい  
ただければ、必ずや道は開けるもの

と確信しております。

郵政サービスは言うまでも無く、  
人々の生活を支える重要なインフ  
ラです。格差社会が叫ばれて久し  
い中、様々な地域で暮らす人々を  
支えるユニバーサルサービスの確  
立に国民の期待が寄せられていま  
すが、労働組合の立場からも、主  
体的に関わっていただき、日本社  
会の安定的発展を支えるべく、鋭  
意取り組みを進めていただくこと  
を期待します。加えて、本格的な  
民営化にともない、民間労使とし  
ての健全な労使関係を新たに構築  
することが、J P 労組のみなさん  
にとって何よりの課題かと存じま  
す。

組合員が働く職場を原点に、労  
使での徹底した論議を通じて、J  
P 日本郵政とそこで働く従業員の  
輝かしい未来を創造していかれる  
ことを心から祈念し、お祝いのメ  
ッセージとさせていただきます。

# 新東京

NO 4403

2007年  
10月29日(月)

日本郵政グループ  
労働組合  
JPU新東京支部  
編集委員会

03-5690-2847  
内線 4163

## 結束したのに 怒られるのはなぜ？

先日、特殊部でこんな事があった。

「東名集中工事の為、名古屋からの翌朝が4:30到着予定です」と担当課長から言われた。

伝下2号便の2輸送交付時刻は4:40!大丈夫なのか…。

職場のみんなは、その名古屋便の遅れの翌朝郵袋が

無事差立られるよう、有証郵袋、翌朝、配達記録の個数を数えてパレットに納入し、速達を点検し、名古屋の遅れ便を待った…。

そして、4:30過ぎに名古屋の翌朝が到着!

早速仮り上げをしようとしたその時、担当課長が、『その翌朝郵袋、載せないでくれ』  
と言いだして、一同啞然!

…当たり前だが聞いてみた。  
「何言ってるんですか!今出せば伝2に間に合うんですよ!」

「2特が名古屋を搭載しないで出したから、うちも足並みを揃える為に…」

「足並み揃えるって何なんですか!そんな事、うちの課には関係ないじゃないですか!」

「いや、宿直長がそう判断したから…載せなくていい」  
「宿直長の判断でも今なら間に合うのだから載せるべきです!」

「いや、次の便でも間に合うって言うてるから…」  
「…!」

結果、現場の判断で翌朝を搭載して無事、伝下2号

便で差し立てる事が出来ました。

そしてパレットを取りに2特の職場の前を通ったら、な、何と！翌朝を、名古屋の遅れの翌朝を積んで今まさにエレベーターに入れるところでした！

話を聞くと、ちゃんと名古屋の翌朝を待って、搭載して差し立てるところだ、との事。

納得がいかなくて、再度担当課長に聞いてみた。

「2特はちゃんと名古屋の翌朝、載せてましたよ！」

『…確認してくる…』  
そして、担当課長は、2特に行つた…。

暫くして、担当課長が現場に戻ってきたので、率直

に聞いてみた。

「今日の自分達の行動に、担当課長はどう思いましたか？」

『自分の業務指示に従わなかったから、…ムツとした！』

「良くやったな！とか、ごくろうさん、とか無いんですか？」

『…ないな』

「担当課長の誤報を信じて翌朝を搭載しなかったら大変でしたね…(皮肉まじりに)」

『…いや、あれは残しても良かったんだ』

「えっ…？」

「じゃあ、次回この様な事故が発生したら、自分たちはどうすれば良いと思えますか？」

『その時は、残せばいい。もし、慌てて載せて、誤搭載でもしたら大変だ…』

これが、現場と管理者との相違点なんだな…って感じました。

宿直長があだとか、他の課と足並みを揃えとか、単に会社のエゴを押しつけられたようで、強い憤りを感じました。

我々の職場は、結束を重視して仕事に取り組んでいます。

分社化して1ヶ月…。

いつになったら上意下達の体質が改善されるのでしょうか…。

【投稿】

日 刊

# 新東京

NO 4405

2007年  
10月31日(木)

日本郵政グループ  
労働組合  
JPU新東京支部  
編集委員会

03-5690-2847  
内線 4163

## JP労組結成大会

### お祝いメッセージ

## 日本郵政株式会社

## 西川 善文 社長



日本郵政グループ労働組合の  
結成を心よりお慶び申し上げま  
す。

私は、日本郵政グループの発  
足にあたり、全社員に対して、  
①「安心と信頼」を得ることを  
最高の喜びと感ずる価値観を共  
有したいこと、②そのため、役  
職員の創意工夫が最大限発揮さ  
れ、努力が必ず報われる職場を

作ること、③そして、お客様に  
「民営化してよかった」と思っ  
ていただくことを、私達の民営  
化の成否を決定する唯一の尺度  
と定めること、などをメッセー  
ジとして伝えました。

一方、JP労組のみなさんと  
も、日本郵政グループが民営化  
後もその使命を果たし、将来に  
わたる成長・発展と社員の幸せ

を実現していくために「事業を  
支えるパートナー」としての協  
力関係をさらに強固なものにし  
ていこうという労使関係協約を  
締結しました。お客様に「民営  
化してよかった」と思っていた  
だくことは、正に労使の共通目  
標であると思います。

JP労組とこのことをしっか  
り確認しあい、信頼関係・協力  
関係をさらに深化させていきたく  
いと考えておりますので、よろ  
しくお願い申し上げます。

新たに発足したJP労組の運  
動が、JP日本郵政グループの  
成長・発展の支えとなっていた  
だくとともに、労働界のみなら  
ず、お客様からも、社会からも  
高く評価される労働運動として  
発展されることを強く期待して  
おります。

一緒に新たな歴史を開いてい  
きましょう。